

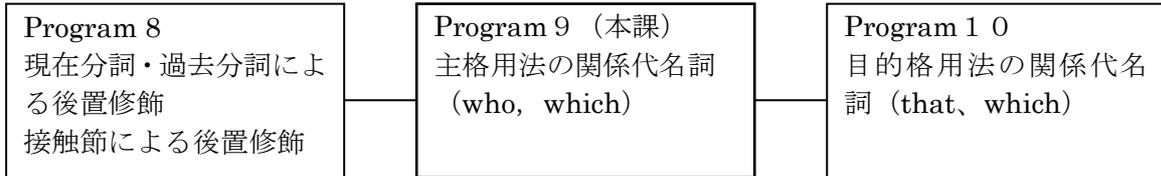
第3学年2組 英語科学習指導案

日時
場所
指導者

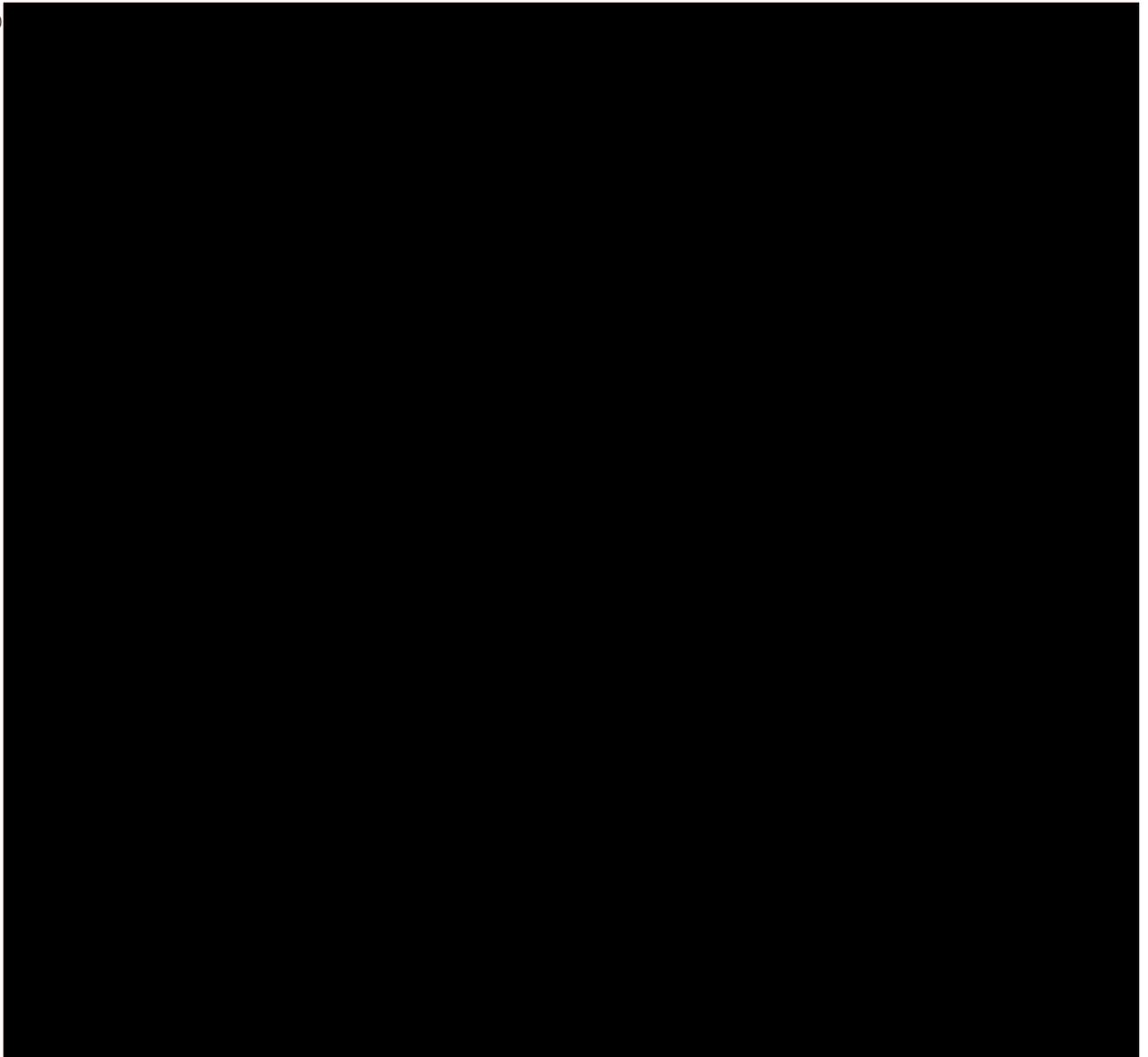
1 題材 Program 9 Fishermen and Forests (Sunshine English Course 3)

2 題材について

- 本題材は、熊本県と北海道の漁民によってそれぞれ行われた植林活動を取り上げ、海の豊かさを守るための自然保護活動の意義について科学的に考えさせる読み物となっている。
言語的には、話題の焦点となる漁師、木々、洪水、森林などのそれぞれの説明において、意味的限定を加える役割を担う関係詞節および接触節の理解をねらう。



○



- 以上の実態をふまえ、指導にあたっては次のことに留意したい。
 人やものを説明する表現を使うようなタスク活動をウォームアップで行うことにより、関係代名詞 *who* の導入につなげていきたい。
 タスク活動を行うにあたって、表現に困ったときのために、ヒントカードを段階に応じて2種類準備しておき、全生徒に課題の達成感を味わわせたい。また、会話後に、会話した内容を書かせることにより、正確な文法、単語や連語を身につけさせたい。
 関係代名詞を導入する際は、**Pattern Practice** を充分行なうことにより、関係代名詞の表現に慣れさせ、理解を図りたい。さらに、関係代名詞の理解を深めるための自己表現活動として、生徒がタスク活動で行った会話を、関係代名詞を使った文を含んだ会話へと発展させたい。

* 人権教育の視点

できるだけ多くの生徒が発表できるような自己表現の場を設定するように心がけ、生徒が発表して満足感・充実感を覚えるような賞賛・励ましの言葉を必ずかけるように留意したい。
 また、ペアの活動では、お互い協力できるような雰囲気作りをこころがけたい。机間指導により、理解の遅い生徒に助言し支援する。

3 題材のねらい

- (1) 主格の関係代名詞を用いて表現される名詞句があらわすものを正しく理解できる。
- (2) 本文を読んで、内容をとらえることができる。
- (3) 環境問題を扱った英文や資料を参考にして、課題解決に向けて主体的に考え、その考えを表現できる。

4 題材の指導計画 (7時間取り扱い)

次	学 習 内 容	配当時間
1	主格の関係代名詞の用法を理解する。	1 (本時)
2	教科書本文の概要を把握する。地球環境をめぐる諸問題の概要を知る。	1
3	p 66, 67, 68の本文を精読し、理解する。	3
4	まとめ1 check and Use 音読テスト 重要文テスト	1
5	まとめ2 地球環境について自分の考えを書いて、発表する。	1

研究テーマ

基礎・基本の定着を図り、実践的コミュニケーション能力を高める指導の在り方

<仮説>

- 授業の中で反復練習を徹底し、家庭学習の評価を工夫すれば、基礎・基本の定着がはかれるだろう。
- 英語を実際に使用する場面を考えた指導を継続的に行えば、意欲と関心が高まり、実践的なコミュニケーション能力が身につくであろう。

本時の学習

- (1) 目標 ・主格の関係代名詞 who、which を使った表現を理解することができる。
- (2) 展開

過程	学習活動	学習形態 個人/ペア/斉	教師の支援	評価の観点	備考
導入 20	1 あいさつ 2 タスク活動 (使・反) (1) ペアでカードに書かれた場面に沿って会話を行う。 A 探している友だちについて説明し知っているか尋ねる。 B 探している愛犬について説明し見たことあるか尋ねる。 (2) 会話で話したことを書く。 (3) 発表する。		<ul style="list-style-type: none"> ○ BGMをかけることにより、生徒をリラックスさせ、自由に話せる英語授業の雰囲気を作る。 ○ 既習の表現をできるだけ使うように励ますとともに、困っている生徒にはヒントカードを渡す。 ○ 大きな声ではっきり話すように助言する。 ○ 間違いを気にせず、できるだけたくさん書くように励ます。机間指導をし、賞賛や助言を与える。 ○ 自信を持って発表できるように励ます。 	◇お互い協力して、既習の表現を使いながら、楽しく会話をしようとしているか	BGM カード ヒントカード プリント
展開 5 7 10	3 主格の関係代名詞の導入 <家> (1) who についての説明 (2) which についての説明 4 パターン・プラクティス<反> カードを見ながら、who、which を使った文を言う。 5 連想クイズ<反・使> 教師の説明を聞き、何のことを言っているのか当てる。 例：This is a car which carries a lot of people. What is it? (bus) 6 タスク活動で使った人物描写を who、which を使った表現に作り替え、ペアで会話をする。<使>		<ul style="list-style-type: none"> ○ タスク活動の会話中にできた文をとりあげ、関係代名詞を使うと、すっきり言えることを伝える。 ○ カードを使って、who、which を使った表現を口頭で言い慣れるようにする。 ○ 集中して、教師の関係代名詞を含んだ文を聞くように促す。 ○ 希望があれば、生徒に問題を作らせ、互いに答えるようにする。 ○ 自信を持って、発表できるよう、賞賛や励ましのことばをかける。 ○ 机間指導をし、正しく文が作れない生徒には、助言をする。 ○ ペアで協力して、教え合うように促し、自信をもって会話できるようにする。 	◇主格の関係代名詞を理解することができるか	カード カード カード プリント
まとめ 3	7 まとめ Someone who ~ ?<反> 教師の英語を聞き、あてはまる場合は立つ。 例：Someone who enjoyed today's class.		<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒が英語を聞き、素早く反応できるようにする。 ○ 授業の理解、情意面についても尋ね、自己評価とする。 	◇本時の学習の目標が達成できたか。	

* (家) 家庭学習の評価の工夫 (反) 授業の中の反復練習 (使) 実際に使用する場面を考えた活動